

講演会報告

都市の構造変動とローカル・コミュニティの様相

講師：玉野和志 首都大学東京 教授

開催日：2009年 7月 8日(水)18:10～19:40

場所：明治学院大学白金キャンパス 3号館 3203教室

主催：明治学院大学社会学部附属研究所

講師プロフィール

1960年石川県金沢市生まれ。東京都立大学(現首都大学東京)人文学部卒業。東京大学社会学研究科博士課程中退。社会学博士。東京都老人総合研究所、流通経済大学を経て、現在、首都大学東京人文学研究科教授。専攻は都市社会学・地域社会学。著書に『東京のローカル・コミュニティ』、『創価学会の研究』、などがある。



《講演の主な内容》

都市の構造変動とローカル・コミュニティの様相を議論するにあたり、まず、・コミュニティの社会的形成過程 ・都市の変動→人々の移動と定住→家族の形成と世代的な再生産 ・都市の時間とコミュニティの時間に着目して『都市とコミュニティをとらえる方法』を整理した。次に、近代の資本主義成立以降の都市発展の時期を、[都市化の時代]、[郊外化の時代]、[再都市化の時代]と分けて、それぞれの時代の代表的なローカル・コミュニティの様相を議論した。

都市化の時代は、シカゴ、大阪、東京を例に、遷移地帯と労働者居住地区の形成に着目して議論を展開し、郊外化の時代は、大量生産と大量消費を実現するフォーディズムの器としての郊外という視点や、性別役割分業を積極的に受け入れた世代の地域活動とその継承の困難性について議論した。再都市化の時代については、英米におけるジェントリフィケーションや、日本における都市再開発と单身女性の都心居住との関連などから、新たな都市の構造変動について議論を展開した。

《当日の様子》

社会学部附属研究所において2010年度から始まる特別推進プロジェクトの準備会メンバーを中心として、主に広報した学内の先生方を中心に15名ほどが集まった。予定を超え、90分近い講演の後、終了時刻をオーバーして活発な質疑応答が行われた。特別推進プロジェクト『現代日本の地域社会における<つながり>の位相-新しい協働システムの構築に向けて-』の内容に直接関係するテーマであり、参加者が現代都市のコミュニティの変容と社会的な問題について、共通の認識を持つきっかけとなる貴重な時間となった。